

専 門 教 養
令和元年 7 月
60 分

受 験 教 科 等
特別支援学校 理 療

注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 問題の音読等、他の受験者の迷惑になるような行為、携帯電話の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、20ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名を記入**してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは**不要**です。
- 8 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年又は平成30年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 10 問題の内容についての質問には一切応じません。

解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。問題には、選択肢から選び解答する場合や、数字又は符号（-）を入れて問題文を完成させて解答する場合などがあり、解答方法が複数ある場合とどれか一つの場合とがあります。
- 2 「解答番号は

1

。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例1）のように解答番号

1

 の解答欄の③にマークしてください。

（例1）

解答番号	解答欄
1	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。

3 問題文中の $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ などの \square には、数字又は符号（-）が入ります。次の(1)~(4)の方法でマークしてください。

(1) $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……の一つ一つは、それぞれ1~9、0の数字又は符号（-）のいずれか一つに対応します。それらを $\boxed{2}$ 、 $\boxed{3}$ 、 $\boxed{4}$ 、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 $\boxed{234}$ に -84 と解答する場合には、次の(例2)のようにマークします。

(例2)

解答番号	解答欄
$\boxed{2}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
$\boxed{3}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{4}$	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

なお、同一の問題文中に $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、 $\boxed{2}$ 、 $\boxed{34}$ のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\boxed{56}}{\boxed{7}}$ に $-\frac{4}{5}$ と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$ として、次の(例3)のように

マークします。

(例3)

解答番号	解答欄
$\boxed{5}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
$\boxed{6}$	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{7}$	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 $\boxed{8.910}$ に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。

4 「ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は $\boxed{11}$ 、 $\boxed{12}$ 、 $\boxed{13}$ 。」と表示のある間に対して、 $\mathbf{2}$ と $\mathbf{5}$ と $\mathbf{8}$ と解答する場合には、次の(例4)のように「 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{8}$ 」の順にマークします。

このとき、「 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{8}$ 」以外の「 $\mathbf{5}$ 、 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{8}$ 」や「 $\mathbf{8}$ 、 $\mathbf{2}$ 、 $\mathbf{5}$ 」などの順にマークした場合には、不正解となります。

(例4)

解答番号	解答欄
$\boxed{11}$	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{12}$	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
$\boxed{13}$	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖

1 特別支援教育に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述**ア**～**エ**のうち、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成28年4月1日施行）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は 。

ア この法律は、障害者基本法の基本的な理念にのっとり、障害を理由とする差別の解消を推進し、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的としている。

イ 障害者とは、身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者であって、その障害に起因する困難により、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある者であり、社会的障壁を含まないものをいう。

ウ 行政機関等及び事業者は、社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、施設の構造の改善及び設備の整備に努めるよう規定されているが、職員に対する研修は規定されていない。

エ 行政機関等及び事業者は、その事務又は事業を行うに当たり、障害を理由として障害者でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害してはならないとされている。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 学校教育における合理的配慮に関する記述**ア**～**エ**のうち、「特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告1」（中央教育審議会初等中等教育分科会 平成24年7月13日）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は 。

ア 合理的配慮とは、障害のある子供が、他の子供と平等に教育を受ける権利を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものである。

イ 障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国、都道府県及び市町村は、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらの合理的配慮の基礎となる「基礎的環境整備」を基に、学校の設置者及び学校は、各学校において、障害のある子供に対し、法令に基づいて一律の環境整備を行う。

ウ 合理的配慮は、一人一人の障害による困難を軽減するために提供されるものであるため、学校の設置者及び学校は、合理的配慮の観点を踏まえ、本人と保護者の意向を聞き取る前に、提供可能な合理的配慮を考えて提供することが求められ、その内容を個別の教育支援計画に明記する。

エ 合理的配慮は、その障害のある子供が十分な教育が受けられるために提供できているかという観点から評価することが重要であり、それについても研究していくことが重要である。例えば、個別の教育支援計画、個別の指導計画について、各学校において計画に基づき実行した結果を評価して定期的に見直すなど、PDCAサイクルを確立させていくことが重要である。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 3] 特別支援教育に係る教育課程についての記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 。

ア 特別支援学級において特別の教育課程を編成する場合、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す自立活動を取り入れることとする。

イ 特別支援学級においては、特に必要がある場合は、特別の教育課程を編成することができるため、指導する内容は、指導に当たる教員の裁量によって特別に決めて指導することができる。

ウ 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部の教育課程は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語の各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動によって編成する。

エ 特別支援学校の小学部において、知的障害者である児童を教育する場合、特に必要のあるときは、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

2

学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）の「総則」の「教育課程の編成」の「職業教育に関して配慮すべき事項」に関する記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを選んで組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は 。

ア 職業に関する各教科・科目について、実験・実習に相当する授業時数は105単位時間を標準とする。

イ 生徒の生活年齢を考慮し、職業に関する各教科・科目の履修を容易にするため特別な配慮が必要な場合には、各分野における基礎的又は中核的な科目を重点的に選択する。

ウ キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域及び産業界や労働等の業務を行う関係機関との連携を図る。

エ 普通科においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、必要に応じて、適切な職業に関する各教科・科目の履修の機会の確保について配慮する。

1 **ア**・**イ**

2 **ア**・**ウ**

3 **ア**・**エ**

4 **イ**・**ウ**

5 **イ**・**エ**

6 **ウ**・**エ**

[問 2] 次の記述**ア**～**エ**のうち、特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）の「総則」の「教育課程の編成」の「教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項」に示されているものとして適切なものには○を、適切でないものには⊖をそれぞれマークせよ。解答番号は**ア**が 、**イ**が 、**ウ**が 、**エ**が 。

ア 海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、日本での生活に慣れるように体験学習を行うなど適切な指導を行うこと。

イ 学校の教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実するため、個別の指導計画に基づき指導方法や指導体制の工夫改善に努めること。

ウ 現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じてガイダンス機能の充実を図ること。

エ 各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。

3

次の事例を読み、下の各問に答えよ。

生徒Aは、知的障害特別支援学校中学部に在籍する自閉症のある生徒である。

生徒Aの様子

- ・ 聴覚から情報を捉えることは苦手であるものの、視覚からの情報を理解することが得意である。
- ・ 他者の様子に関心があり、進んでコミュニケーションを取ろうとする。
- ・ 気持ちが落ち着かなくなったときに、自らの行動を抑制することが難しく、他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。
- ・ 困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法が身に付いていない。
- ・ 険しい表情や口調で話してしまうことが多く、相手に動揺を与えてしまうことがある。
- ・ 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。
- ・ 一方的に話してしまうことが多く、相手の話を聞くのが苦手なため、会話が成立しにくい。

(「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月)」から作成)

[問 1] 下線部に関連して、自閉症のある児童・生徒の障害の特性を踏まえた指導に関する記述として**適切でないもの**は、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 他者との関わりをもとうとするが、その方法が十分に身に付いていない児童・生徒に対して、はじめから多くの教師と様々なやりとりを経験するようにする。
- 2 言葉でのコミュニケーションが困難な児童・生徒に対して、話し言葉を補うためにタブレット型端末等を活用して要求を伝えられるようにする。
- 3 音に過敏に反応する児童・生徒に対して、苦手な音がして落ち着かなくなりそうなときにイヤーマフを自分で着用して音量を調節できるようにする。
- 4 身体を前後に動かして自己刺激を過剰に得ようとしている児童・生徒に対して、ブランコ遊びなどの他の適切な活動に置き換えて、同じような感覚を得られるようにする。

〔問 2〕 次の記述**ア**～**エ**のうち、自閉症のある児童・生徒の障害の特性や「生徒Aの様子」を踏まえた生徒Aへの指導として正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は

10

。

ア 他者に対して荒々しい行動をしてしまったときに、落ち着くことのできる小部屋を用意し、慣れた別の活動に取り組み、気持ちを落ち着かせるようにする。

イ 相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなどを、実際の生活場面とは切り離し、プリントを使って指導を行う。

ウ 絵カードを使って表情から相手の意図を推測する学習を行い、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができるようにする。

エ 「もうちょっと優しい言い方なら大丈夫だよ」と、意味内容に幅のある表現を用いて状況に応じた話し方を口頭で伝える。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 3] 「生徒Aの様子」を踏まえ、個別指導計画の自立活動の目標を「一方的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話す」と設定した。この目標を達成するための具体的な指導内容として、次の記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 。

ア 相手に伝えなければならない事柄を、いつ、どこで、どうしたいかなどの項目を示した資料を見ながら順番に話す機会を設定する。

イ 予定されているスケジュールや予想される事態や状況を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりすることで見通しをもてるようにする。

ウ 日常の会話の様子を動画で撮影し、省みるようにすることで、相手の話を聞きながら話したり、穏やかな口調や表情で相手に接したりするよう意識させる。

エ 話し言葉ではなく、メモ帳やタブレット型端末等を活用して、文字のみで自分の話したいことを相手に伝えるようにする。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

4

障害に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述ア～エは、視覚障害者である児童・生徒の視覚障害の状態に関するものである。正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の 1～6 のうちのどれか。解答番号は 。

- ア** 視覚障害とは、視機能の永続的な低下により、学習や生活に支障がある状態をいう。片眼だけ視機能の低下がみられる場合も、遠近感覚がないなどの不自由があるため、視覚障害である。
- イ** 視力測定はランドルト環を視標とした万国式試視力表を用いる。0.1の視標が5mの距離から正解できない場合は、それよりも近い距離で測定する。例えば、1mの距離で0.1の視標が正解できた場合の視力は、0.02である。
- ウ** 最小可読視標とは、遠見視力表を用い、一番見やすい距離まで目を近づけてどこまで視標を読み取ることができるかで表す。例えば、「最小可読視標：0.3/5cm」は、5cmまで近づければ、0.3の視標が読み取れることである。
- エ** 0.01より低い視力は数値で表せないが、明暗も分からない状態を「光覚なし」、明るい暗いかが分かる状態を「光覚（弁）」、眼前で動かした手の動きが分かる状態を「手動（弁）」、眼前の指の数が分かる状態を「指数（弁）」という。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 聴覚障害者である児童・生徒に対する指導上の配慮事項に関する記述**ア**～**エ**のうち、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は 。

ア 言葉の意味を理解したり、それによつて的確な言語概念を形成したり、その指導の過程において言語による思考力を高めたりするためには、具体的経験をいかに言葉で表現し理解できるようにするかが極めて大切なことである。

イ 読書の指導に当たっては、児童・生徒がどのような読み方をしているか、果たして読んでいる内容が理解されているかなどの観点から質問などをするのは、児童・生徒の意欲をそぐことになるため、避けなければならない。

ウ 各教科の指導においては、話し合い活動を中心に授業が展開され、そのことを通して、学習内容の理解が図られることから、意思の相互伝達が円滑かつ的確に行われ、それが全体として一層活発化されることが特に望まれる。

エ 児童・生徒が「分かる」ことに支えられて、主体的に学習が進められるよう発展的・応用的な事項に重点を置いたり、興味・関心のある事項を優先的に取り上げたりするなど、工夫して指導するよう努めることが大切である。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 3] 肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導に関する記述として最も適切なものは、次の 1～5 のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 自立活動の指導を行うためには、特別支援学校自立活動教諭の教員免許状を所有していることが必要である。
- 2 学級担任の教員は、自立活動の指導は自立活動の担当者に全てを任せて、教科等の指導に専念すればよい。
- 3 自立活動の指導は、自立活動の時間を設けてその時間だけ行えばよく、教科等の指導では自立活動の指導を行う必要はない。
- 4 自立活動の指導は、指導目標を数値化してその達成状況に応じて観点別評価を行い、数値による評定を行う。
- 5 障害の状態により、必要に応じて専門の医師やその他の専門家の指導・助言を求めて適切な指導を行う。

[問 4] 次の記述ア～エのうち、知的障害者である児童・生徒の学習上の特性を踏まえた指導に関するものとして適切なものには①を、適切でないものには⊖をそれぞれマークせよ。解答番号はアが 、イが 、ウが 、エが 。

- ア 自発的な活動を大切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力等を育むよう指導する。
- イ 一人一人の児童・生徒の知的障害の状態や経験、興味・関心などを踏まえるとともに、可能な限り実際の場面に即した状況で指導する。
- ウ 将来の社会参加と自立のため、補助具等の学習環境は、発達の段階よりも生活年齢に即して設定し、自力で取り組む力につながるよう指導する。
- エ 学校で学習した内容が、家庭生活を含む日常生活の様々な場面で、学習した内容の深化や、生活の向上につながるよう指導する。

[問 5] 病弱者である児童・生徒に対する指導に関する記述として最も適切なものは、次の 1～4 のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 糖尿病の児童・生徒は、医療機関が主体となり、徹底した健康管理を行うため、学校では、児童・生徒が病状を気にしないように全ての活動に参加させる必要がある。
- 2 白血病の児童・生徒は、治療計画によっては、入院と退院を繰り返すことがあるので、退院時にはすぐに学校に登校し、指導が再開できるようにする必要がある。
- 3 心身症の児童・生徒は、心理的に緊張しやすく、不安になりやすい傾向があるが、病気の原因を把握しつつ、様々な集団に積極的に参加させる必要がある。
- 4 心臓疾患の児童・生徒は、運動制限の範囲を超えて身体を動かして、病状が悪化することがあるので、病状や体調に応じて生活を自己管理できるようにする必要がある。

5

特別支援学校高等部学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）理療の「各科目」の「目標」のうち、「医療と社会」の目標として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 臨床医学やリハビリテーションに関する基礎的な知識を習得させるとともに、疾病と日常生活とのかかわりを理解させ、施術を適切に行う能力と態度を育てる。
- 2 医学、医療及び理療の歴史、医療制度と関係法規に関する基礎的な知識を習得させるとともに、理療従事者の倫理について理解させ、施術者として必要な能力と態度を育てる。
- 3 健康の保持増進、疾病の成り立ちと予防に関する基礎的な知識を習得させ、これを施術に応用する能力と態度を育てる。
- 4 理療に関する実的な知識と基礎的な技術を習得させ、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を育てる。

[問 2] 次のア～カは、特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）理療における科目である。また、下のA～Fは、各科目における指導内容や取扱いの際の配慮事項に関する記述である。ア～カとA～Fとの組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 21。

- ア 地域理療と理療経営
- イ 臨床理療学
- ウ 理療情報活用
- エ 疾病の成り立ちと予防
- オ 人体の構造と機能
- カ 理療臨床実習

- A 健康と理療施術で生活習慣病を取り扱う際は、予防の観点を重視して指導する。
- B 理療と社会では、地域医療で理療が担う役割を、実践例を交え具体的に指導する。
- C 指導に当たっては、地域の保健や医療、福祉機関と連携し、実際的な理解を促す。
- D 理療と情報機器の活用では、患者のプライバシー保護の必要性を認識させる。
- E 生活習慣病を取り扱う際は、急増の背景や課題を理解させ、予防対策も指導する。
- F 代謝と体温では、各栄養素の作用及び代謝とその調節について理解させる。

- | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | ア－A | イ－B | ウ－D | エ－F | オ－E | カ－C |
| 2 | ア－A | イ－C | ウ－D | エ－E | オ－F | カ－B |
| 3 | ア－B | イ－A | ウ－D | エ－E | オ－F | カ－C |
| 4 | ア－B | イ－D | ウ－C | エ－F | オ－E | カ－A |
| 5 | ア－D | イ－B | ウ－C | エ－A | オ－E | カ－F |
| 6 | ア－D | イ－E | ウ－C | エ－A | オ－F | カ－B |

6 理療に係る法令について次の問に答えよ。

[問] 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」の第十三条の七に規定される50万円以下の罰金に処されるものとして適切なものは、次の1～4のうちのどれか。

解答番号は 。

- 1 都道府県知事が、衛生上害を生ずるおそれがあると認めた業務に関する必要な指示に対し、施術者が違反した場合。
- 2 はり師が、はりを施そうとするときに、はり、手指及び施術の局部を消毒しなかった場合。
- 3 あん摩マッサージ指圧師が、医師の同意を得ずに脱臼又は骨折の患部に対して施術した場合。
- 4 施術者が、施術者であるとき、又は施術者でなくなった後において、正当な理由がなく、その業務上知り得た人の秘密を漏らした場合。

7

理療及び保健理療の専門分野に関する次の各問に答えよ。

[問 1] マッサージの基本手技に関する記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は **23**。

ア 強擦法は軽擦法と圧迫法を複合して行うような手技であり、らせん状・渦巻き状などの種類がある。関節周囲で多く用いられる。

イ 叩打法は一般的に中等度の力で短時間行うことが多く、神経や筋の興奮性を高める。そのうち、拍打法は手のひらをくぼませて叩く手技で、背部、胸部、腹部に多く用いられる。

ウ 揉ねつ法は筋肉に対して行えば、血行を促進し、新陳代謝が盛んになる。また、腹部に行えば、胃腸機能を高め、消化吸収を盛んにして、便通をよくする。

エ 軽擦法の循環系に及ぼす作用は、モーゼンガイルやライブマイルの報告により、血行促進、浮腫の吸収促進が実証されており、指蹠軽擦法は筋膜の柔らかい所などに用いる。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 2] 灸施術によるリスク管理の指導に関する記述として最も適切なものは、次の**1**～**4**のうちではどれか。解答番号は **24**。

1 灸頭鍼の艾球と皮膚面との距離は、温熱刺激を十分に与えるため 1 cm以下にする。

2 八分灸は深達性Ⅱ度熱傷を生じるため、施灸後の消毒を十分に行う。

3 糖尿病患者は熱傷を起こしやすく治りにくいので、刺激の弱い糸状灸を用いる。

4 灸痕部の化膿予防として、壮数を重ねる場合は正しく同一点に施灸する。

[問 3] 刺鍼中の手技の指導に関する記述として最も適切なものは、次の 1～4 のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 示指打法は、鍼を一定の深さに刺入し、その鍼に再び鍼管をかぶせ弾入時のように鍼管の上端を叩くよう指導する。
- 2 随鍼術は、患者の呼吸に合わせ、刺鍼時は吸気時に刺入し、呼気時に止め、抜鍼時は吸気時に止め、呼気時に抜くよう指導する。
- 3 屋漏術は、目的の深さに刺入し、しばらく留置した後、少し抜き上げて留置し、再び前の深さに刺入し留置するよう指導する。
- 4 刺鍼転向法は、鍼尖を皮下に留め、押手、刺手とともに皮膚を縦横に又は輪状に移動させ皮下に刺激を与えるよう指導する。

[問 4] 足の厥陰肝経の原穴の部位に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 足背、第 1・第 2 中足骨間、中足骨底接合部遠位の陥凹部で足背動脈拍動部。
- 2 足関節前外側、長指伸筋腱外側の陥凹部、外果尖の前下方。
- 3 足背、第 2 中足骨底部と中間楔状骨の間、足背動脈拍動部。
- 4 足関節後内側、内果尖とアキレス腱の間の陥凹部。

8

徒手で行う検査法に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 股関節の徒手筋力検査法に関する記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の 1～6 のうちのどれか。解答番号は 。

ア 外旋の検査で筋力 1 をみる際は、被検者は仰臥位で下肢内旋位を取る。検査者は被検者の下肢外側に立ち、外旋運動を指示する。梨状筋の収縮を触知できれば、筋力 1 と判定する。

イ 内旋の検査で筋力 1 をみる際は、被検者は仰臥位で下肢外旋位を取る。検査者は被検者の下肢外側に立ち、内旋運動を指示する。大腿筋膜張筋の収縮を触知できれば、筋力 1 と判定する。

ウ 伸展の検査を行う際は、被検者は伏臥位を取り、検査者は被検者の骨盤外側に立って行うが、伸展筋のうち、大殿筋のみを分離して検査する場合は、被検者の膝関節を伸展した状態で実施する。

エ 屈曲の検査で筋力 1 をみる際は、被検者は仰臥位を取り、検査者は検査肢の膝の後ろから腓腹部を持ち上げ、屈曲運動を指示する。縫工筋の内側、鼠径靭帯直下で大腰筋の収縮を触知できれば、筋力 1 と判定する。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 2] 胸郭出口症候群の理学的検査法に関する記述**ア**～**エ**と、その検査の名称A～Dとの組合せとして適切なものは、下の**1**～**8**のうちのどれか。解答番号は 28。

- ア** 検査者は患者の後方に位置し、患者に座位を取らせ胸を張るように指示する。両側の橈骨動脈を触知しながら両上肢を後下方に引き下げ、橈骨動脈の拍動の減弱又は消失が認められれば陽性とする。
- イ** 検査者は患者の後方に位置し、患側の橈骨動脈の拍動を触知しながら、患側の上肢を後下方に引く。患者の頸部を過伸展し、健側に回旋するように指示し、橈骨動脈の拍動の減弱又は消失が認められれば陽性とする。
- ウ** 検査者は患者の後方に位置し、両橈骨動脈を触知しながら、患者の両上肢を肩関節90°外転・外旋位、肘関節90°屈曲位にさせる。橈骨動脈の拍動の減弱又は消失が認められれば陽性とする。
- エ** 検査者は患者の前方に位置し、両橈骨動脈を触知しながら、患側に患者の頸部を回旋・後屈させる。次に深吸気のところで息を止めさせ、患側の橈骨動脈の拍動の減弱・消失と症状の再現が認められれば陽性とする。

- A ハルステッドテスト
B ライトテスト
C エデンテスト
D アドソンテスト

- | | | | | |
|---|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 1 | ア －A | イ －B | ウ －C | エ －D |
| 2 | ア －A | イ －C | ウ －D | エ －B |
| 3 | ア －B | イ －A | ウ －D | エ －C |
| 4 | ア －B | イ －D | ウ －C | エ －A |
| 5 | ア －C | イ －A | ウ －B | エ －D |
| 6 | ア －C | イ －D | ウ －A | エ －B |
| 7 | ア －D | イ －B | ウ －C | エ －A |
| 8 | ア －D | イ －C | ウ －B | エ －A |

9

理療及び保健理療の専門基礎分野に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 感覚器に関する記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の 1～6 のうちのどれか。解答番号は 。

ア 蝸牛は 2 階構造であり、下階が鼓室階、上階が前庭階である。その間は蝸牛管で仕切られている。鼓室階と前庭階は外リンパで、蝸牛管は内リンパでそれぞれ満たされている。

イ 味覚の受容器を味蕾といい、舌表面の有郭乳頭や葉状乳頭、口腔粘膜などに存在する。味覚の支配神経は、舌の前 3 分の 2 が舌咽神経、後 3 分の 1 が顔面神経の枝である鼓索神経である。

ウ 平衡感覚器には、前庭と半規管があり、そのうち、前庭は膜迷路に属する球形のうと卵形のうに分かれる。球形のうと卵形のうは、共に身体の傾きと直進する方向及び加速度を感じる。

エ 網膜は神経層と色素上皮層からなり、光を感じる視細胞は最も硝子体側、眼球中心に近い層に位置し、錐体と杆体に区別される。錐体は中心窩付近に、杆体は網膜周辺に多く存在する。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 2] アレルギーに関する記述ア～エと、その型A～Dとの組合せとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は 30。

ア 抗原によって感作されたTリンパ球からリンフォカインが放出されるとともに、それによってマクロファージ等が活性化されて起こる反応。

イ 抗原とIgE抗体、肥満細胞との反応で、肥満細胞からヒスタミンやセロトニンが分泌される反応。

ウ IgG抗体などと抗原が結合して免疫複合体が形成され、さらに補体を活性化させて起こる反応。全身性エリテマトーデスや関節リウマチを引き起こす。

エ IgG抗体やIgM抗体が細胞表面の抗原と結合し、補体やマクロファージ等が関係して起こる反応。赤血球を溶解し溶血性貧血を起こす。

- A I型アレルギー
- B II型アレルギー
- C III型アレルギー
- D IV型アレルギー

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| 1 | ア-B | イ-A | ウ-C | エ-D |
| 2 | ア-B | イ-C | ウ-A | エ-D |
| 3 | ア-D | イ-A | ウ-C | エ-B |
| 4 | ア-D | イ-C | ウ-A | エ-B |

問題番号		解答番号	正答1	正答2	正答3	配点	備考
大問番号	小問番号						
1	1	1	3			3	
	2	2	3			3	
	3	3	3			3	
2	1	4	6			3	
	2	ア 5	-			1	
		イ 6	1			1	
		ウ 7	1			1	
	エ 8	8	1			1	
3	1	9	1			3	
	2	10	2			3	
	3	11	2			3	
4	1	12	5			3	
	2	13	2			3	
	3	14	5			3	
	4	ア 15	1			1	
		イ 16	1			1	
		ウ 17	-			1	
		エ 18	1			1	
	5	19	4			2	
5	1	20	2			5	
	2	21	3			5	
6		22	4			5	
7	1	23	4			5	
	2	24	4			5	
	3	25	1			5	
	4	26	1			6	
8	1	27	5			6	
	2	28	5			6	
9	1	29	2			6	
	2	30	3			6	